

第 17 回縮小社会研究会の報告

研究会 50 名、懇親会 25 名参加でした。

時：2013 年 9 月 21 日、13 時 30 分—17 時、
所：京都大学農学部総合館 W106（地図は下記）

最終的なエネルギーは木材です。今回は、山について活動されてきたお二人に講演をしていただきます。また、これまで当研究会は日本についてのみ検討してきました。しかし、縮小社会は世界を視野に検討する必要があります。そこで、海外の縮小に関する動向について紹介していただきます。

講演会は会員のみならず、一般にも公開しております。参加費は会員は無料、非会員は 500 円です。

1. 「海外での《縮小社会》的運動の状況」市場良行

インターネット上で"degrowth: 脱成長"等のキーワードから関連する記事を検索し、関連する語句・人名が現れたら検索ワードに付け加えてゆく作業を継続中です。特にリーマンショック以降活発になっているようですが、主張する点・活動状況等をまとめて発表する予定です。

2. 「里山林のエネルギー利用—バイオマス利用で自然を守る—」田端英雄

かつて薪炭林としてエネルギー利用されてきた里山林が、今は管理放棄されて荒廃している。しかし、裏山の林のバイオマスを薪炭とは違った形で、利用できれば里山をよみがえらせることができる。しかも、里山のバイオマスは再生利用可能なエネルギーでもある。

3. 「岡山県西粟倉村 百年の森林構想」牧 大介

株式会社トビムシ 小村力研究所所長、株式会社西粟倉・森の学校 代表取締役

岡山県西粟倉村は、2008 年に「百年の森林構想」を掲げ、森林再生からの地域再生を目指している。小さな村の力を最大限に引き出していくために力を入れてきたのは、村で活躍する起業家の発掘・育成である。

会員懇親会：17 時 30 分—19 時、 所：縮小社会研究会事務所、会費 1000 円、